

科目名	高次脳機能障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Higher Brain Dysfunction Assesment						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 3年						
授業概要	高次脳機能障害の概要と各障害の障害像について教授する。また、高次脳機能障害が影響する生活障害について考え 作業療法士の役割についても提示する。併せて、作業療法を実践するうえで必要な画像所見や評価方法の基本的な知識と技術、作業療法介入について教授する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高次脳機能障害の定義および典型症状を理解することができる。	
	○	○				高次脳機能障害を抱える人の生活障害をイメージすることができる。	
	○	○				各高次脳検査の手順と方法を説明し、実施することができる。	
	○	○				各高次脳検査の結果を解釈し、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 鈴木孝治: 高次脳機能障害学領域の作業療法. 中央法規 2) 病気がみえる vol.7 脳・神経. MEDIC MEDIA						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コースガイドンスおよび脳の機能解剖					
	2	脳画像の見方					
	3	高次脳機能障害総論			小テストの準備を行ってください		
	4	高次脳機能障害における作業療法の展開					
	5	意識・見当識障害に対する作業療法					
	6	注意障害に対する作業療法			小テストの準備を行ってください		
	7	記憶障害に対する作業療法					
	8	遂行機能障害に対する作業療法					
	9	失語症に対する作業療法			小テストの準備を行ってください		
	10	行為障害に対する作業療法					
	11	失認に対する作業療法					
	12	半側空間無視に対する作業療法			小テストの準備を行ってください		
	13	事例検討					
	14	事例検討					
15	定期試験						
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

<b>科目名</b>	<b>臨床実習Ⅱ</b>		
<b>単位数</b>	8単位	<b>時間数</b>	400時間
<b>実施年度</b>	2019年度	<b>実施時期</b>	7月1日～9月7日
<b>対象学科・学年</b>	作業療法学科 3年次		
<b>授業概要</b>	学内セミナーにて作業療法評価や介入の模擬的なトレーニングを学生同士や模擬症例使用し行った後、学業ごとに割り当てられた臨床実習施設にて10週間の実習を行う。実習後は体験した来た実践を振り返り知識・技術について共有する。		
<b>実習目標</b>	社会人・職業人として適切な人間関係を実習施設で構築することができる。		
	担当症例について作業療法評価を実施し、作業に焦点をあてた作業療法実施計画を立てることができる。		
	担当症例について立案した作業療法プログラムを作業に基づいて安全に配慮しながら実施することができる。		
	作業療法プログラムを適宜修正しながら進めることができる。		
<b>実習計画</b>	実施した作業療法について、作業療法理論やICFIに基づき報告書としてまとめることができる。		
		<b>実 習 内 容</b>	
	1		
	2		
	3	6月24日～6月29日 臨床実習Ⅰ事後セミナーおよび臨床実習Ⅱ事前セミナー	
	4	臨床実習Ⅰで体験してきた症例を通じたペアワーク	
	5	(学生同士での検査・測定実習および、体験してきた症例を通じた評価計画および作業療法プログラム立案演習)	
	6	7月1日～9月7日:臨床実習Ⅱ(10週間)	
	7	※施設の就業規定に応じて5日/週を基本とする。	
	8	9月9日～9月21日:事後セミナー	
	9	臨床実習Ⅰ、Ⅱ全体を通して体験した症例について、日本作業療法学会の規定に準じて症例報告を実施する。報告会日程は別途提示するが、日程に応じて担当教員の指導の下準備する。	
	10	また、上記指導を通して、作業に焦点をあてた作業療法実践についての職業的アイデンティティを育てる。	
	11	臨床実習Ⅱ終了後は、12月実施の学力試験Ⅰまでの期間、国家試験対策講座およびグループ学習について、スケジュール、内容を別途提示しセミナーを開催する。	
	12	また、学力試験Ⅱまでの期間も国家試験対策講座およびグループ学習について、スケジュール、内容を別途提示しセミナーを開催する。	
	13		
14			
15			
<b>評価方法</b>	臨床実習成績評価報告書および12月に実施する国家試験形式の学力試験Ⅱの成績を総合して判定する。		
<b>履修上の注意</b>	臨床実習期間中は、小さな問題や困りごとは担任または学校まで報告・相談すること セミナー期間も出席すべき日数としてカウントするので、体調管理を徹底してほしい。		